

# 王子西地区教育環境整備協議会 ～地域における教育環境を考える会～ (会議の概要)

## 第1回 (仮称)王子西地区ブロック協議会

■平成15年10月8日

■中央公園文化センター

### ■次第■

1. あいさつ
2. 学校適正規模等審議会(第二次)答申について
3. (仮称)ブロック協議会の基本的な考え方
4. 王子西ブロックの現状
5. その他

### ■発言要旨■

#### ○質疑

- 校長としては、中学校の適正規模の目安について、技術や体育など、男女に分かれて行う授業のことを考えると、クラス数は奇数よりも偶数の方がやりやすい。個人的には4～6クラスがいい。
- (事務局回答)学校適正規模の目安は、適正規模等審議会第一次答申を引き継いでいる。
- 協議会の委員について、現在子どもは中学3年生ですが、来年3月に卒業した後もPTAとしてメンバーになるのか。
- (事務局回答)職をもってあてる、と考えている。新たな委員がメンバーになっていただくのが良いと考えている。
- 王子第二小学校は、進学する中学校が十条中学校と王子中学校に分かれる。近隣ブロックの状況について知りたい時はどうしたらよいか。
- (事務局回答)各ブロックの中の学校を通して情報を流している。情報が欲しいことを事務局へ知らせていただくと、必要な情報がお伝えできるのでありがたい。

#### ○幹事会の構成について事務局より提案し、下記のとおり決まりました。

- 町会自治会:各連合会より2名ずつ、計4名
- 中学校PTA関係:2校より4名ずつ、計8名
- 小学校PTA会長:3名

- 中学校長:2名
- 小学校長:2名
  - 小学校PTAと小学校長は、同じ学校が重ならないようにする。
- 合計19名をもって構成する。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第1回)

■平成15年11月14日

■上十条区民センター

■次第■

1. あいさつ
2. (仮称)ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の進め方について

■発言要旨■

○設置要綱について

- 名称を「王子西地区教育環境整備協議会」とし、多くの方の理解が得やすいよう、サブタイトル「～地域における教育環境を考える会～」をつける。

○委員の任期について

- 委員は職をもって充てているため、会長・校長等の役職を交替した際には協議会委員も交替する。
- 協議会は16年度末で一定のまとめを行うとしていることから、任期は平成16年度いっぱいとする。

○座長選出について

- 座長1名、副座長1名とする。
- 座長・副座長とも、学校関係者ではなく、町会・自治会関係者が適切である。
- 座長に、岸昭二氏(十条地区町会連合会会長・十条仲原1丁目町会会長)を選出。
- 副座長に、坂場正則氏(王子本町一丁目町会会長)を選出。

○幹事会の進め方についての発言

- 十条中と富士見中をそのまま存続させるという選択肢はあるのか。
- (事務局回答) 審議会では学校の適正配置、適正規模を求めている。
- 学校運営で、小規模校は大変なのか？ 小規模校でもやりようがあるのではないかな？
- 一般的な話として、以下の理由から、学校運営に影響がある。1)部活動指導、2)選択教科、3)行事・クラス編成。個人的には1学年4ないし6クラスが望ましいと思う。
- 教員数が減っても、事務量は変わらず、相対的に教員の負担が増加する。集団における子どもの成長にはある程度の規模が必要。
- データ提供を望む。他のブロックで既に出ている意見の整理や、小規模校を存続させることのメリット・デメリット、理想的な教育環境について。
- この協議会の進行に関して、よからぬ噂が流れないように、委員の皆さんで十分注意して欲しい。子どもが不幸になっては協議会を開く意味がなくなる。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)

■平成15年12月12日

■十条台ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 今後の検討に向けて
4. その他

■発言要旨■

- 小規模校のメリット・デメリットに関連するが、教員は校内で科目教科1名になると、ひとりよがりになりがち。適正規模を保てば、科目教科2名以上になる。
- 多摩市での統合経験からすると、新しい学校づくりの視点が必要。どんな学校がいいかという夢を語りたい。
- 学級数は40人学級が前提か？
- (事務局発言)東京都は40人学級維持の方針を示しており、現行制度内では区独自には変えられない。
- 学級規模で教員の教えやすさは変わるか？ 現場で希望する学級人数はどれ位か？
- 一般的に少ないほどやりやすいが、体育などは少ないとやりにくい。
- 少人数学級がよいということならば、それを目指して考えることはできないか？
- (事務局発言)東京都は40人学級を維持しながら、習熟度別学習等、多様な少人数授業を研究している。

- 教員定数上、足りなくなると講師対応になるのか？
- 講師対応になるが、現場では教員が少ないと困る。講師では授業時間のみの対応で生活指導はできない。
- 6学級では、教員定数が10名になる。中学校教科では最低11名必要だが、必ず何かの教科が欠けることになる。
- 子どもにとって人格形成に大きな影響があり、ある程度の規模が必要。合理的に考えると、統合すれば子どもたちにはよい結果になる。
- 個人的には学校がなくなるのは寂しい。しかし子どもたちにとっては、このままではどうか、と思う。適正規模が必要かな、とは思いますが、複雑な気持ち。
- 2校が1校にならなければならないのが現状ではないか。校舎建て替え中はどちらかの学校に子どもが通うことになる。統合は子どもたちにはいいが、卒業生に未練が残る。子どもの将来にとって、どういう学校で育つかを考えると、大人は決断するときには決断しなければならない。町会長としては子どもたちが良くなればいいと考える。子どもたちが新しい学校で良い環境で学べれば、夢がある。
- 統合校の所在地はどう考えているか？
- 現状では新しい土地は無い。2校のどちらかにするのが妥当。子どもたちは最初違和感があるかもしれないが、新しい名前の素晴らしい校舎ができる。他のところからも子どもが来るかも。大人には未練が残るだろうが、それが適正配置ではないか。
- 小学校と中学校では違うとは思いますが、統合校の様子はどうか？ 当初の希望と違う点があるのではないか。
- (事務局発言)平成14年に4カ所で統合した。子どもたちには特に違和感はないようだった。友達が増えてうれしいという声を聞いた。ある程度の摩擦や不安定はあるが、先生方の気遣いもあり、スクールカウンセラーからの報告では1学期から問題なしとのことだった。ただ、PTAは今までのやり方と違う、今までこうしていたのに、ということは1年目にはあった。2年目には、グループはあったものの、1年生の保護者が入ったこともあり、時間とともに落ち着いた。1年目の春、運動会のにぎわいに喜ぶ保護者の姿が印象的だった。OB会の統合などに課題が残る。
- この地区は王子第三小・北ノ台小の統合を経験したが、数年たつと問題はなくなっていく。1~2年は保護者・OBに思い入れがあるが、数年すると新しい保護者が支えるようになる。
- 北ノ台小は人数が少なく、致し方なく統合したケースだが、今回は違う。地域の話し合いが必要になる。
- (事務局発言)今回の中学校統合は消極的な統合ではなく、より活力ある学校を目指す積極的視点から進めるものである。
- 良い教育を受けることができる、という方向で話をするのが時代の趨勢。条件は先の話になるが、今の2校が1校になるべきということは誰もが何となく納得できるのではないか。2校とも閉じて、1つの新しい学校ができるというのが、望ましい形ではないか。
- 新しい校舎を建てることは確定している話なのか。
- (事務局発言)適正規模審議会第2次答申では、統合校は建て替えを前提にしている。優先順位の問題はあるが、統合にあたって、改築するという趣旨。

- 他のブロックも進んでいるのか？
- (事務局発言)地区によって進み方は違う。
- 統合すると平成20年に比較的理想的な形になる。できれば統合する、という形で進めてはどうか。小規模校を保護者が嫌い、私立に進むなど悪循環も考えられる。
- 中学校は勉強・クラス活動・部活が柱。部活の顧問になる先生が足りない。団体競技ではチーム数が足りない。試合の時も他の部から人を借りたりする現状がある。OBからすると学校が無くなるのは寂しい。だが、子どもの選択肢が減ってしまい、かわいそうなので、早めに前向きに考えた方がよい。
- 何が何でも今のままが良いというのではなく、子どもたちのことを考えれば良くなる方向へもっていかなければならない。富士見中は野球部がないので、十条中へ流れている。
- 統合反対ではないが、この協議会は最初から統合に向かってしまっていないか。
- (事務局発言)事務局としては、学校がこのままではよろしくないと考えている。できれば一緒にとは思っているが、ルールを敷いているわけではない。16年度末のまとめで、残念ながら一定の結論なし、ということもあり得る。疑念はこちらの説明不足だが、まとまることを願っている。他地区では、望ましい学校数、組み合わせ、敷地まで進んでいるところもある。
- あと何回かの話で、統合するかどうかを決めるとすると、地域の皆さんには、どう知らせるのか？
- (事務局発言)幹事会で方向が決まると、全体会へ諮る。その後、協議会だよりを発行して、保護者・地域へ経過説明する。

### 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)

■平成16年2月5日

■上十条ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校数の検討
4. その他

■発言要旨■

- 早く統合の決断を下し、その後の問題を考えた方がよいと思う。皆さんの態度を表明して欲しい。

- 10年前、一番上の子の中学校在学時は4クラスあったが、今では2クラスになった。大きな団地もなく、子どもが増える見込みがない。このまま十条中と富士見中の2校とも残すと、どちらかが少なくなってから統合するのではないか。今のうちにみんな考えてはどうか。運動会などを見て、人数が多い方がいいなと思っていた。
- 卒業生なので複雑です。現在1学年3クラスで80人位。子どもと保護者の顔がよくわかる。電話できるし、子どもの様子がわかるし、他の子もわかってあげられる。昔のように6クラスあると、子どもと保護者の顔がわからなくなる。でも、合併しても4クラスでは、話を進めた方がいいかと思う。小学6年生の保護者が、来年統合するのではと話している。早く進めた方がいいのではないか。
- 個人としては思い入れがある。子どものためと考えると、致し方ない。どういうペースで進めていくか。統合する・しないははっきり言えないが、進めないといけない。統合する方向で進めるなら進めた方がいいし、進めるならばいい方向で一本化した方がいい。
- 自分の卒業した学校が消えてしまうのは未練が残る。資料のこれからの推移を見ても、減少してクラス数は3クラスから2クラスに減る。小規模校は少人数教育という利点の反面、人間形成・大勢の中のつながりという点で問題がある。統合は望ましいのではないか。
- 私立に進む子も多い。魅力のある学校を作ること考えてはどうか。堀船や浮間からも来られるような魅力のある学校を作る話を。
- 統合して環境が良くなる、子どもたちがよりよく育っていくのならば、そこに至るまでの時期・決め方が問題となる。ボタンを掛け違くと歪みがあるので方法論を考えなくてはならない。メリット・デメリットを考えてきたが、やはりある程度の人数が必要なのは間違いない。クリアしなければならぬものを具体的に挙げていって、何らかの方法で関わる人全員から、生の声をヒアリングしてはどうか。
- 統合に向かっていると受けとめている。良い刺激は、子どもの成長に良い。調査をしっかり行い、子どもの環境を考えて、よりよい学校づくりを。すぐにGOは難しいとは思いますが、決めなければならない。
- 10年前が、平成20年の2校合計と同じ規模だった。そのときに少なくなったなと思った。統合に向けた方がいいと思う。隣同士の学校で、幼稚園の時に一緒だったとか、富士見中の保護者・十条中の保護者は顔見知り、親近感はある。現場の声にある子どもが少ないデメリットを早く解決した方がいい。どんな統合でも、あとで何か出るのは当たり前、それに向けて話し合いをもった方がいい。
- これから中学に上がるときをイメージして、不安をはきだして合意してはどうか。これからの保護者の方が今の保護者よりも考えているのではないか。これから上がる人の気持ちや、細かいところのメリット・デメリット等の不安を取り除いて、納得しての統合でない子どもたちがかわいそう。小学校の小規模と中学校の小規模の違いが現実的につかみにくい。
- 町会や地元、いろいろな話を聞いて、心配はあるが、物事には裏表がある。色が決まると、協力できるぞ、とはっきりするし、はっきりしないと不安になる。良い学校とは何か、受け身ではなくてじゃあどうしようかと考えないと。

- 前向きに考えた方が協力を得られる。生徒減は確実にやってくることを前提に考えなくてはならない。
- 新しいことを考えるときには、10人同じは無理。平成20年には生徒数は減る、やむを得ないと思うが、その結果としてよりよい環境作りを考えていかなければ。
- 平成20年の規模では次の統合が出るのではないか？ 私立の子の保護者や0歳から3歳の子の保護者の声を聞いてはどうか。私立はグラウンドも狭いし、通学時間がかかるのに何故選ばれるのか。理事会など、私立には変わらない理念がある。外部評価はあるが、学校に来ない人に評価できるか、住民の皆さんも一緒に経営していく感覚がないと。コミュニティがあって学校があり、まちづくりの一環として学校づくりがある。
- 私立は高い授業料・寄付を払って、目的意識のある生徒が行く。公立は税金で経営をしているのだから、生徒が少ないと負担しづらくなるのではないか。合理的に必要な数の先生を配分するには一定の規模が必要で、校長・教頭・養護教諭・事務を含めて20名位だろう。平成20年には3学年で11クラス、統合しないと5~6クラス、これで教員20名が配置できるか？ 校長在任の3年を過ごせばいいんだという先生にあつたら生徒は不幸だ。学校づくりは私たちの責任、統合前のことで滞っては仕方ない。誰が見ても妥当だと思われる結論を出したい。
- 現場の中にあつて、学級数減は運営に影響がある。各学年2学級ずつでは選択幅が少なくなるのは事実。現在の生徒数292名のうち3分の1は区域外から通学しているが、それがなければ各学年2学級ずつになるかも。彼らが何を目当てに十条中を選んだのか？ 理由は、部活が活発・行事が活発・子どもが荒れていない、の3つ。授業の時数では私立とは競えない。
- 新しい学校とはどういうことか、例えば王子西地区で50年間フレキシブルに対応できる体制とは、誰にもわからない。義務教育の中でやることは地道なこと。いい生徒を育てている自負はある。外部評価でも、学校の内情・地道なことが伝わらない。公立中が生き延びるには多様なものを受け入れ、地区でこういう中学生を育てたいというイメージを示し、返していくことが必要。
- (事務局発言)適正な通学距離の確保は重要と考えているので、平成20年に再統合という話が出たがそれは考えにくい。経営責任は、教育委員会・校長にある。PTA・地元には協働参画して欲しい。公立校のハンデを支えるのは地域の力、公立の強みは地域で話が出来ること、それは私立にはないこと。
- ソフトもハードもこうなつた方がいいという将来像や、決めること、乗り越えることを解決して、結果的に統合ということなら決まる。統合ありきで話すのは違う。
- 統合する・しないを決めても、それから問題を話し合つて、まずければ止めることができるのではないか。
- (事務局発言)統合を決めたうえで課題を解決していこうということと、目指す像を決めて、統合が必要なら統合する、という2つの意見だと思う。協議会で1校とする方向性を決め、あとの点、名称・PTA等は、確定後、統合協議会で話し合うことと考えている。
- 統合としてから決めることはたくさんある。決めごとが決まらないと心配だ。急ぎすぎるから心情的な反感・反発が出てくる。

- 学校の現実として、1校であるのが、平成20年には最低の理想線ではないか？ そうするのが我々委員の仕事で、危惧する問題は、今後、直接携わる人達が、詰めの話し合いをされていくのではないか。今から心配ばかりしては進まないのではないか。
- 元々この問題は社会的状況から発生している。最初から決めてかかるのはおかしいというのは一理ある、ここはこういうふうにしようと話し合っ、統合となればそれでいい。もう一回、話し合いをして、一緒になっての摩擦など、そういうことを確認をしてはどうか。
- 統合の負とは何か？ 生徒の動揺、歪み、これは下の人には影響がない。
- 統合するとはっきり見えた時点で、聞いていない、嫌だ、とくるものだ。周りのケアが必要だろう。
- (事務局発言) 地元・PTA・卒業生の意見調整は難しいが、方向を定めないと、話し合いを進めるのも難しい。固めるのではなく、この地域にふさわしい学校の数を示す方向づけを。
- 統合の時の危惧は皆がもっているが、大筋において、1つの新しい学校ということであった。全体会に来た人達に意見を出してもらって、もう一回お互いにそしゃくして、方向づけにもっていければいいのではないかと思う。

#### ■ 今回のまとめ ■

『王子西地区の望ましい中学校の数は1校であるということを前提に議論を深める。ただし、議論の結果、課題があれば引き返すこともあり得る。』とする。

### 王子西地区教育環境整備協議会(第2回)

■ 平成16年3月12日

■ 十条台ふれあい館第1ホール

#### ■ 次第 ■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. その他

#### ■ 発言要旨 ■

- (事務局発言) (経過説明)
- 少子化や、私立へ行くという生徒減少傾向の中で、この地区の中学校は1校にせざるを得ない、ということと理解した。
- PTA・父母・卒業生にはそれぞれ学校に深い愛着があるが、それを断ち切って、これからの子どもたちのために統合して、適正な教員数を配置していきたい。現在幼稚園に通って

いる子が入学する頃に、新しい学校が出来るだろう。協議会委員の意志として決まれば、両校のPTA・校長同士で話し合っ、もっとも良い環境について話し合っ、いけないか。1校にするかどうかをはっきりしないと、いつまでも決まらない。お互いの思いをぶつけ合っ、それを全体会で決断していただきたい。

- 1校でやむを得ないと思うが、今日の参加委員数が少ないと感じる。もっと来てもらうには、協議会の開催通知に返信はがきでも入れてはどうか。
- (事務局発言) 次年度の開催に向けて考慮したい。
- 幹事会の報告は、何も言うことはないくらいよくできている。教育は大事、特にこれからの人には大事。よりきめ細かい教育が出来るならばそれでいい。統合の中身がいいのか悪いのかはわからない、物理的には統合となるのをどう進めるか、という問題だろう。
- 大変いい結果になっていると感じる。
- 議論はもっと中身の濃い話だが、第3回幹事会の報告はそれをまとめて示してある。統合良かれという考え方と、結果的に統合という考え方との二つのずれがある。文字ではなく生の声で再現してはどうか。
- (事務局発言) (第3回幹事会要旨を音読)
- 統合ありきで進めるのは反対と考えている。地域や関係者全員にどう広めていくかアドバイスをいただきたい。この場は、ある意味では水面下の話である。何について議論するかを含めて、色々な方々へヒアリングをした方がいいと思う。その結果として、条件や考え方が合っ、統合するのならばいい。協議会で決めたから統合、ではボタンが掛け違えるのではないか。
- 議題から先走っ、結論を出したくなる。北ノ台小学校の問題でも議論を重ねて、収まるどころに収まっている。もうちょっと時間をかけてはどうか。
- 今後の進め方はどうか。
- (事務局発言) 今日までの結果が今年度のまとめとなる。平成16年度末までにまとまった意見が、この地域の意見となる。他のブロックでは、望ましい学校数・位置・実施時期について話しているところもある。
- 次回以降の議題について。全体会において、こういうことを解決・議論すべき、という点を明らかにして、地元の意見をどういう形で拾うか、伝えるかを考えてはどうか。
- 公平な第三者の立場として座長になっているが、この問題は、速やかに進めなければならないと考えている。全体会で納得されれば、広報手段は、地元には掲示板・回覧板もあるので、その反応を持ち寄っ、話し合いをしてはどうか。それ以上深めるのは実際難しい。本当の子どもの幸せのためには、1校が適切だと感じる。よりよい環境がよい芽生えを作る。お互いの考え・不安は当事者同士の話し合いで納得すればいいのではないか。
- (事務局発言) より多くの方に知ってもらっ努力は、ご意見のとおり本日までの経過を『協議会だより』として、児童・生徒を通じ、保護者へ周知するとともに、町会回覧を通して周知したい。また、連絡先を記載して、ご意見が寄せられるようにしたい。他の地域でもPTAの求めに応じて、報告をしている。要望があれば、いつでも学校に出向いていく。『協議会だより』には幹事会ではなく全体会の了解事項を報告したい。
- 町会で話し合いの議題にしてもいいのか。

- (事務局発言) 全体会で了解したことは話していただきたい。この問題は、現実には目の前の問題にならないと注目されない面がある。1校にすることを前提にして、議論を深めていく中で課題が出てくると考えている。適正配置の必要性・方向性は適正規模等審議会です一定の考え方は示されており、北区全体として、校舎改築の必要性も迫っている。改築してから統合ということでは納得していただけない。色々と議論はあろうが、話を進めるためにも出来れば納得の上進めていただきたい。
- 2校を存置するのでは、学校経営上の教員の必要数を維持できない。平成20年度末の推計値では生徒が不幸ではないか。教育環境を向上させるためには2校を1校にすることが必要。次の問題は、当事者双方の協議でとことん話し合っ、双方落ち着けるように問題を解決してはどうか。1校の方向性で、あとはハードとソフトを分けて論議してはどうか。「1校の方向で」ということでいいと思う。

以下の「中間のまとめ」を全体会として了承した。

「王子西地区の望ましい中学校の数は1校であるということを前提に議論を深める。ただし議論の結果、課題があれば引き返すこともあり得る。」

#### 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)

■平成16年5月27日

■上十条ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 第2回全体会のまとめ
4. 望ましい学校配置について
5. その他

■発言要旨■

◎第2回全体会後の反応について

- 協議会だよりが配付された後、王子第三小・王子第五小の保護者から話を聴いた。富士見中がなくなるという噂が先走っている。今年度の中学校1年生がその噂で十条中に入ったと聴いている。協議会での話が進んでいるうちに噂が先行していて、遺憾に思う。平成7年に北ノ台小と王子第三小が統合した過去の事例もあり、敏感に感じている。先日富士見中同窓会を開いたが、卒業生には現在の保護者も多い。こういう話自体を遺憾に思っ

ている。幼稚園も含めた保護者にこのような話を進めていますという説明会を開いて頂きたい。

- (事務局発言) 学校やPTAの要望には、いつでも対応させて頂く。校連などで機会を持つのであれば、そこに伺う。
- 校連で主催し、責任者をたてて来てもらうということによろしいか。
- 伝え聞いたところでは、十条中と富士見中の校庭・校地面積から十条中が残るという印象を与えたとのことだ。説明会で説明して欲しい。
- 学校での反響はどうか。
- 直接には聴いていないが、同窓会や地域の人達の間で噂が先行している。きちっと説明しないと、面白半分にしたことが本当になってしまう懸念がある。
- 時間が1年近くたって、生かじりで聴いたことが口から出る。最初に心配したことだ。これを機に関心を持って携わってくれればいいのだが。
- 十条中では反響がない。富士見中に進む小学校では、何年度に統合というこの協議会の中でも話したことのない話まで出ている。どういうことか。
- 平成17年度に統合と広まっている。
- 途中で統合するならばはじめから、と保護者は思う。
- 統合という形の前に、新しい学校をつくる。建物を造る、新たに生徒が通う。十条地域の皆が新しい学校に通うということを理解してもらえない。
- 今の教育を良くするために、吸収されたとか、したとかではなく話をしているのだが。今の子どもたちの現場を考えると、規模を大きくした方がいい点には賛成。アレルギーみたいに反応する人がいるのではないか。
- 地域として、生徒数が多いということはない、統合しなければ子どもには不幸だと感じてしまう。この前の全体会でも一定の方向でやむを得ない、その後の中身に対して素晴らしいものをつくるのが望ましいとして、意見をお寄せくださいと回覧した。十条中の反応は。
- 特に話がない。ある小学校の保護者だが、富士見中の件を誤解していて、十条中に入れた方がいいのかと聞かれた。間違った噂が流れている。早急に正しい話をした方がいい。
- 反応としては、基本的に富士見中がなくなる、十条中が残るものだというもので、混乱はない。平成20年度でのシミュレーションを見て、平成20年度で統合ととらえている。統合となる学校同士で連携がないので、お互いの顔が見える体制づくりが必要だと思う。顔が分からないと、想像だけで進んでしまう。
- 協議会だよりを読む人は幅広い。お母さん方以外は中身を読まずに、これは十条中だとか、今年統合が来年に持ち越されたとかいう話になる。文章から受ける印象が人により違う。直接集めて話した方がいい。
- 全体に聴いたわけではないが、このタイミングで出す必要はないと言っている。富士見中がなくなるとか、はじめから十条中に入れようとか。協議会だよりの文章への誤解が大きい。
- どちらの中学に入れようかなとは聴いた。平成20年度にはこういう状況になるという話をしてはどうか。みんなで話し合っていくことはいいことだが、こういう会があるので、いつ統合するのかという話が出る。統合した学校に魅力がなければ私立に行く人、新校以外の公立へ目を向ける人もいるだろう。魅力ある学校について考えていけない。

- 統合については、結論は出ていない。なぜこのタイミングで協議会だよりを出すのかといっても、いつまでたってもキリがない。決まったら、どこかでやらざるをえない。一つになって進めないといけない。
- 町会としては、言わないのかも知れないが、聴いていない。各校で誤解があるようだ。平成20年度に決まったわけでもないし、誤解を解くために座談会のようなやりとりをしてはどうか。
- 町会ではその話が出ない。「統廃合でなくなっちゃう」という響きが強く、一人歩きする。どこかで噂の歯止めが必要だ。どう伝えるか手段を考えないといけない。キチンとした話を進めようとしているのに、感情的な話が入ってきては火消しが大変。現在の状況を伝えないといけない。

### ◎望ましい学校像について

- 十条中、富士見中ではなく、新しい学校はこうした方がいいという考えを挙げていきたい。
- 結果的には、どちらかの場所につくらざるをえない。各校の伝統・体制の陰には街の人々や校長など大勢の人がいて愛する気持ちがあって、今の学校がある。少子化のために、無理して2校を維持するとこの地域の子どもたちが不幸になると。今の小さい子が将来どうすれば素晴らしくなるか、と考えては。新しい学校の中身は、今まで携わった人達を継承するものをキチンとつくって、2校がこう生まれ変わった、新しい学校の役員でもあったのだという思いやりの心を持っていけばいいのではないか。
- どちらの土地を使うかは後の話、新しい学校としてスタートすることをこの幹事会で確認して、噂をどうただしていくか。
- 学校がなくなるときは十条中も富士見中もなくなるということ。新しく学校をつくるのならグラウンドは大きい方がいい。その前に建て替えを確認しておきたい。統合は響きが良くない、新しくつくると言うことがポイント。
- (事務局発言) 間違いなくとは言い切れないが、統合校は優先して新校舎をめざす。今後策定される改築計画にどう折り込むか、教育委員会として強い思いで進めている。
- 新しい学校をつくるのだからやるべきだ、と進めるべき。
- (事務局発言) 地域が望んでいるという意見は頂きたい。予算の裏付けはあるのか。
- (事務局発言) 区内8カ所で協議会を進めている。新築には1校約30億円かかる。8校では240億円。その手当ては付いていない。学校改築基金の積み立ては40億円だが、1校18億円といわれている持ち出し額からすると、3校分にしかない。跡地の利活用・有効活用によって財源を得ながら建て替えを進めたい。区内いずれの校舎も老朽化し、いずれ建て替えしなければならない。空調・情報化の要望などもあり、60校全てでの建て替えは無理で、統合校を優先せざるをえない。先着順かと言われると、建物の老朽度を考えざるをえない、方向性を見いだせない地域を待つわけにも行かない。地域の強い思いは入ってくる。
- 一つの新しい学校をつくるのだと進めていきたい。

- この会議ではその思いは伝わっているが、それを学校にどうやって伝えていくのか。噂話がどんどん広まる中で、改築の機運を高めるのも一つの方法だ。我々が声を大にしても範囲は知っている。せっかくのいい話だが動きがとれなくなる。
- 一般の保護者に説明する機会が必要だ。どういう魅力ある公立校をつくるか、場所は現実的な問題だが、どういう中身にするかこれから考えるうえで、一般の意見を聞くことも必要。
- 中身の話は、校長・PTAの間でこうあるべきという話をしてもらった方がいいと思う。
- 王子第三小では、2年後に富士見中がなくなるとか、何年後になくなるといふ噂が飛び交っている、この協議会の考えを一般の保護者まで伝える機会が必要だ。これから中学校に進む人の誤解があれば、この協議会の意味がなくなる。
- (事務局発言) 説明会の話は、日程調整の上伺わせて頂く。本日の意見として、どういう学校づくりをめざすのかという点について議論を進めるということによろしいか。
- 中学校は将来どうなるのがいいか、校長先生がよく分かるのではないか。
- (事務局発言) どういった学校づくりを目指すか、ソフト・ハードに分けるときに、項目立てについては校長先生と話し合いながら進めていきたい。
- 中身の話は難しいが、理想的なものをつくっておかないといけない。
- 校連を利用して、という意見に賛成。しっかりと現状を説明して、こういう学校をつくろうと前向きに。我々幹事がそういうところに出るのも役目かなと思う。富士見中での説明会は早急にやった方がいい。
- 統合は何年も前から噂になっていた。先走って噂が流れている。
- 子どもの幸せのために、ということ误解のないように話をしたい。
- 十条中と富士見中で一緒に説明会を開くということも考えられないか。
- ぜひお願いしたい。
- 校長先生には大変だが、理想的な中学校についてはよろしくお願いしたい。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年6月29日

■十条台ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第4回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校像について
4. 望ましい学校配置について
5. その他

## ■発言要旨■

### ◎望ましい学校像・学校配置について

- 今までの経過から、この地域では中学校数は1校が望ましいということだったが、どこの位置に絞るか。中学校2校のうちの1つの敷地を利用することになるが。
- ソフトよりもハードということか。
- 幹事会としては、メリット・デメリットの話をして、位置を一カ所に絞っていきたい。痛みもあるかも知れないが、そうして、今まで学校に努力して頂いた方には出番が来たら出る所に出てもらいたい。こういうものが実現できれば、みんなが良かったと言ってもらえるような姿にしたい。そうしないと、両校の関係者とも苦勞をかけるだけではないか、今の生徒の指導に情熱を注げないと不幸ではないか。
- 普遍的な理想の学校を探ることと、地域性を考えることがある。やり方は色々あるが、地域の要望として、同窓会会長の意見を受けた。(読み上げ)
- そういう思いを入れた学校をつくらうとしている訳だが。
- (事務局発言) 中学校間の交流はスタートラインに立ったばかりかと思います。
- 将来の子どもにとって、2校のままで良いのか、不幸になってしまうのではないか、その後に統合するのでは遅いのではないか。どこの場所に学校を置くのが良いのか。内容については校長や功勞者に意見を聞いていくのが良いのではないか。
- 噂と誤解についてはどうするのか。誤解が広まっている段階で話をすることは無意味になってしまうのではないか。
- 皆さんはどう考えるのか意見を聞きたい。
- 今まで回を重ねているが、理想とする学校をつくりましょうと、出したら出したで反応がある、注目されている。片方では理想の話をして、片方では場所の話では、何をやっているのかとなるので、論点を絞った方がいい。
- 委員が替わり、理解がされていないのではないか。統合はとんでもないというのも分かるが、これから生徒数が減少し、1学年1から2クラスでは、教育内容に支障をきたす。生徒数が減少すれば、教員数も減少して、学校として停滞する。統合がいい悪いではなく、スケールを理解してもらいたい。これを理解してもらわないと、堂々巡りが続く。
- 長年双方の伝統を培った皆さんに一肌脱いで頂きたい。統合ありきで始まったのではなく、将来の不幸を解消するのは我々の考え方なのではないか。
- ここにいる皆さんがこの会をどこまで行けば一歩先に進めるのか、それをしないとバラバラなままで、誤解が生じる。
- 王子西地区で1校にすると、色々噂が先行する中で説明会があり、それでも理解されずにウヤムヤになっているというところでしょうか。
- 富士見中OBの方の思いとして、不快に思っているということだと思う。
- 王子第三小では、噂は耳に入っていない。保護者の間で話しているのかも知れないが。一部の私立進学者を除けば、富士見中に進学している。どちらが先かで話をすれば、基本理念・コンセプトを話し合う必要があるかと思う。

- 地域の思いは何10年と重ねている。子どもだけを見れば、多様なプログラムを提供できる可能性は減っていく。小学校1年生は減少している状況で考えると、ある程度適正規模を確保する必要はあると思う。新しい施設整備をきちんとして、まちの中でシンボルになる存在を目指して良いのではないか。子どものことだけを考えると、進めないといけない。
- この地域にふさわしい学校づくりを進めていって、位置は後の問題。どのようにふさわしい学校をつくるかというのがこの会の意味だと思う。校地の話からはいると、噂が流れる。
- 前年度あそこまで話を進めて、委員が替わったのが仕方がないが残念。
- 子どもたちのことを考えると、1校で仕方がない。ただ、今の子どもたちを犠牲にしてはいけないのではないか。
- 保護者として、ちょうど統合にかかるかも知れない。不安はあるが、そういう話をして頂けると、納得してもらえと思う。皆まだ実感がないのではないか。
- 背景としては、旧北ノ台小の経験もあり、危機感のある方としては、グラウンドの大きさ等からしてなくなるのではないかと不安を募らせた。協議会だよりで不安と思うことをどう解消するのか、協議会だよりの件は協議会だよりで解消したい。子どものためを考えれば、適正な人数は当然だと思うが、私立に行く子どもが多くなっている中で、魅力ある公立づくりを考えていきたい。
- スイッチバックによって今年度から委員になった方が理解してくれればいいが。自分の卒業校がなくなる、とんでもない、というのは理解できる。子どもたちが不幸になるのも理解できる。どこまで歩み寄れるのか。
- (事務局発言) 1校になるメリット・デメリットを検討したからこそ、1校になろうという方向性になったと考えている。小学校へ情報が行っていない、不安だという意見があったが、小・中とも同じにしている。PTAや学校で要望があれば、全体会で決まったところまで説明する。位置について、まずはどういった学校をつくるのか、本日配付した資料をもとに、次回はどういった学校づくりを目指すかという議題に絞るため、柱立てを示したシートを各幹事あて送る。事務局で整理したうえで、議論をしてもらいたい。
- 色々な観点で話をするが、区としてできること、できないことをキチッと見通しが立つように示して欲しい、やって欲しいことはたくさんある。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成16年7月29日

■上十条ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第5回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校像について

4. 望ましい学校配置について
5. 傍聴者からの意見
6. その他

## ■発言要旨■

### ◎望ましい学校像・学校配置について

- 今日は出席委員が少ないようだが、事務局には事前に電話連絡するなど、委員の出欠の把握に努めて欲しい。委員の皆さんにおいても、やむなく欠席する際には事務局に連絡をお願いしたい。
- 次回の予定は、2週間前ではなく1か月ぐらい前に知らせて頂きたい。
- (事務局発言) 各委員への確認あるいは電話連絡等、ご指摘を踏まえて改善したい。
- (事務局発言) (統合校の考え方シートの説明)

#### 1. 2つの学校が、統合により新しい学校となるために

- 設備からすると、暑いから夏休みがある訳だが、これから新しくつくるにはエアコンは必要なのではないか。
- 理想の学校というか、新しい学校となるために、知育と体育、学校のクラブ活動の意義は大きいと思う。現在はクラブ活動を重く見ていないのか。
- (事務局発言) 大きな流れとしては、人生の色々なところでスポーツを楽しむという考えから、地域体育への流れがある。
- 放課後に公園で野球やサッカーができる環境は少ない。日本の現状では、クラブ活動ができるのが親としてもありがたい。現在過渡期だろうが、何十年かかるか分からない。学校体育のクラブを応援したい。スペース的に野球やサッカーができる広さと、教える先生が必要ではないか。
- 現状ではそれができていないのだから、これから新しくするならばそういうことが受け入れられるようにするといい。公立学校の置かれている位置は大きいが、少子化の中で理想の教育を進められなくなってきたのではないか。教科教室型校舎についても、すばらしい授業ができるようにということを言っているのではないか。
- (事務局発言) 1に、多様な部活が活発に行われることという意見を加えたい。まとめとして、地域・PTAに前向きになってもらうため、校舎は新しくすること、校名などのシンボルとなるものを新しくすること、今までの歴史に一定の区切りをということ、空調・IT設備を整えるということ、部活を活発にすることということでどうか。
- 部活は中学校では存在意義が大きい。教員に依存しているが、教員は現在6年で異動が原則。一生懸命やって、6年で異動で終わりではいけないだろう。一部の熱心な先生以外に期待するのは難しい。地元の熱心な大人のクラブがあれば、それに伴って、子どもも面倒見ようかとなる。大人のボランティアなどのサークルが育ってきて、それに付随するかたちが理想ではないか。文化部でもそれは同じ。今までの伝統に区切りをつけるかどうかは、

後への引きずり方に現れる。伝統を継承する方が盛り上がる。両校のPTA会長経験者に顧問を依頼して、熱い想いを学校に向けてもらう努力が必要だ。

- 統合したならば双方の良いところを引き継いで、新たな伝統をということだろう。勇気を持って一步を踏み出そうではないかということでは。地域の大人が活動できる場所を確保することで、学校の活動にプラスになれば。
- 学校の先生に対して、奉仕でクラブ活動をやってくれという考え方はおかしいのではないか。そういう先生への手当とか、報酬とかを考えるべきではないか。地域の大人も一生懸命やっているが、いつも子どもという先生の負担は大きい。
- (事務局発言) 両校の歴史と伝統を大切に、新たな伝統をつくるというまとめでよろしいか。
- 富士見中のバスケ部などは、地域の人が教えている。放課後3時・4時から週5回見るのは大変なことだと思う。大人が使えるための施設は夜間設備も必要になるのではないか。
- つくるにあたっての要望として出すのは可能だろう。

## 2. 地域の全ての人々にとって、「私たちの学校」となるために

- (事務局発言) 学校施設の管理のあり方は議論のあるところ。学校は地域の施設であり、月曜から金曜は学校が教育施設として使い、土・日曜は地域が管理責任を負うという考え方も出てきている。
- 最終的には地域の人に支えられる学校運営という点で、地域運営学校ということ視野に入れてはどうか。学校が発展するかどうかのキーワードになり得ると思う。どこまで踏み込むのかは別にして、新しくつくった学校を見守っていきましょうという姿勢が必要なのでは。
- 地域の50~60代の方の地域への貢献は力強いけれど、場所を作ったとして、今の30~40代ができるかを考えると、果たしてできるかなと思う。自分たちができるかと思うと…20代のお母さんたちはまた様子が違う。大丈夫なのだろうかと思う。
- 私たちも先輩たちを見てそう思いながらやってきた。10年20年先にはもっといい社会がきっとできる。
- 地域の施設を月曜から金曜まで学校が借りているという発想はなるほど、と思う。夜や休日の体育館の鍵の管理まで教頭という今の制度を変更しないと、せつかくの新校がスムーズにいかない、中身が伴っていかないと感じる。生徒の安全という点を忘れずに、地域・学校で使えるということを考えて頂きたい。
- 地域の中に学校の存在がどれ位広がっているか、少数ではないか。学校施設を利用して生涯学習活動などできれば、学校に目が向くのではないか。安全との兼ね合いが難しいが。
- 現状の先が見えない中で、理想的な学校の話をするのが難しい部分がある。
- 1校にしましょう、はい賛成といけば、その後の段階として徹底的に理想の学校を議論できるが、そこまで至っていないので、モヤモヤしながらやっていくのかな、という段階かと思う。新しく学校を作りましょとなれば、私立でも新しい学校でも見学に行くのだが、今は産みの苦しみでしょう。

- もっと早い段階で煮詰まるかと思っていたが、なかなか結論が出ない状況。1つにしようというところまでは決まったが、理想の学校はどうだろうと、中身のアンコを詰めている。検討シートは、理想とするところの目一杯まで来ているのではないか。これが全部かなえられるかといえば、そうではないだろう。いつ一つになるのかというものが無い、それが決まると地域は動き出す。結果的にここで決まったものの責任はどうなるのか、次の段階はどうなるのか。見通しを聴きたい。
- (事務局発言) 他の地区では、理想的な学校の数・配置・統合の実施時期を協議したうえで、地域が理想とする学校像を協議している。この地区は1校が望ましいということは決まったが、配置の前に理想的な学校像を協議しているため、その点が難しい点かと考える。1つの学校が望ましい、こういう学校をつくるのが地域の期待だとなった時点で、やはりどうしても統合校の場所・時期を議論することになる。以前にも言ったとおり、平成16年度末までにこの協議会でまとめた事項が、この地区のまとめとなる。
- その後はどうなるのか。
- (事務局発言) 各地区のまとめを踏まえて、区で検討することになる。
- 出来れば区が決めるのではなく、地域で考えて区に実現を要求するぐらいのことをしたい。
- 地域の人にも関心を持ってもらいたい。協議会だよりをきちんと読んで頂きたい。回覧で回しても読んでいないので、結局噂だけが先行している状態。決まってから、いつ決まった、そんなことは知らないとなる。
- 1校になりたいという方向で、引き戻すこともあり得るということだが、我々としては引き戻ることのないように一生懸命討議している。1校にならなければ、将来の子どもたちが理想的な教育を受けられなくなるのではないか。1、2について、今日の内容を事務局にまとめてもらって、次回3について協議したい。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第7回)

■平成16年10月21日

■十条台ふれあい館第1ホール

■次第■

1. あいさつ
2. 第6回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校像について
4. 望ましい学校配置について
5. その他

■発言要旨■

- これらのまとめに書いてあることは全て良いことだと思う。良い学校とはどういう学校かとこれまで審議してきたが、ではどこへ1校の学校をつくるのか、場所を決めないと中身の話に進まないで、そういう方向の話をしたい。
- 勉強不足で申し訳ないが、場所として財務省官舎跡はどうなのか。
- 新たな場所は考えられないと以前回答があったが。
- 両校の間にあるのならば理想的だが。
- 学校は意外に広い。特に十条中は区内で一番広い。
- (事務局発言) 次回、地形や面積などを示す。
- 客観的にみて立地条件など判断すると良いのではないか。校舎を建て替えている間は建て替えない方に通学して、お互いになれてから、両方そろって新しい校舎へ通学すればいいのではないか。校名などは両方で検討して良い名前を考えればよい。そういう段階に入ったのではないか。
- 望ましい学校像を考えるにも、場所についてまず決まっていないと、漠然としてしまう。
- (事務局発言) 十条中は区内で一番広い敷地面積の中学校である。財務省官舎跡について、何か変化があったかと思う。次回までに調べる。
- 時期が一番の問題だ。着工から完成までどれ位かかるのか。
- (事務局発言) 設計から完成までおおむね4年かかるものとみている。
- 両校が2クラスずつになってしまっからの統合では遅いのではないか。
- 平成20年度の後、どのように減少していくのか、見通しが立てばいいのだが。
- 建て替えは、他のブロックとの兼ね合いも出てくるだろう。
- 王子中と桜田中は統合すると聞いたが、次年度または2年後には建設するとなると、資金がなくなるのではないか。
- (事務局発言) 10年間で9校を改築すると基本計画素案で出している。10年20年先の話ではない。将来の人口推計については、通学エリアとは若干異なるが、王子西地区の平成35年までの人口推計値を示したい。
- 2校の生徒数を足すと、全体で先生の数に余裕が出て、濃い教育ができるのではないか。
- 教員数は、加配や団塊の世代の退職が見込まれるので、余裕のある状況ではない。
- (事務局発言) 新しい学校をつくるにあたっては、教室数の想定が重要になる。
- 2校とも2・2・2の6学級になるのではないか。
- そうなるだろう。絶対数が減っている。
- 私立もがんばっているし、こういう時代でも家庭が教育にかける費用は変わらない。
- (事務局発言) 1)人口動態、子どもの数がどうなるのか。2)財務省官舎跡の広さ、利用目的の2点について、次回までに調査する。
- いつから、どちらでと決めるのは難しい。
- 王子第五小は、周囲の道路が狭く耐震補強工事がなされていない。
- 耐震補強工事をするのに、校庭をつぶして1年2年もかかっては、子どもたちがかわいそうだし、無理がある。
- 例えば中学校統合後に富士見中校舎を王子第五小として利用してはどうかとか。
- 教育委員会で何か青写真があるのか。

- (事務局発言) 青写真はない。ステップを踏んで決めていきたい。1校になるという方向づけはできた。では場所はどこか、いつ統合するか、というステップを踏んでいる。
- 場所はここと決めて、理想的な学校にしようと考えていってはどうか。お互いに学校をよく見てみてはどうか。どこが良いかと、規模や地勢的に見つめて、こちらにしようという話をしたらどうか。
- 望ましい学校像について1年かけてきた。これで中締めとして、場所について真剣に考えてみては。
- 中身はどこにつくっても同じだが、新しい場所ならば、造ってすぐに移れると考えて財務省官舎跡を出したのだが。
- 3カ所ならば3カ所で考えればいい。
- 1校になるのだから、どちらの校地でも官舎跡でも形としては出来たところに入るのがいい。一般的には広い方がいいだろう。
- 望ましい中学校に必要なものは、このまとめと、後は優秀な管理職・教員、この他にはないだろう。
- 中身というのは先生の方がよく分かるし、施設も先生の方が分かる。地域の思い、あって欲しい施設は地域の方が分かる。先生・地域・卒業生が別々に考えれば可能性が広がるのでは。
- 場所が決まってから思いをプラスしていけば、すばらしい学校になる。
- 地域を見る限り、十条中は真ん中にあるし、北区一広い。富士見中の地域・OBの強い思いをどう受け止めるのかという点については、王子第五小を富士見中の位置に移設できないか。住宅密集地であるので地域の安全面も考えてもらいたい。
- 敷地が広いところ、富士見中よりも十条中の方がいいだろう。区が10年で9校を改築するとしたら、北区のバランスを考えて、案をもっているのでは。
- (事務局発言) 区の意向だからするのではなく、地域の意向を一本化することが重要と考えている。区の意向で進めるのならば、従来型の統合で進めている。
- まとまらなければそれはそれでいいということではないだろう。
- これでいいとなれば、放任できるのか。
- (事務局発言) 区がごり押しするというスタンスはない。大枠で10年間で9校の改築、この中に王子小中も入っている。8地区の協議会で、どの場所につくるかは地域の考えを重くみようとしている。合理的には十条中の場所でも、地域が富士見中だというならばそうせざるを得ない。望ましい学校像は、場所が決まっていなくて細部は難しいのではないか。場所を考えないと、次の段階へ進まないのではないか。
- 十条中の方が環境的にはよいだろうと思う。
- 座長の言うように、1回見てみたらどうか。
- そうすれば整理もつくだらう。段階を踏んでなるほど、となるのでは。
- どちらになっても、どちらかから文句は出る。
- 早く具体的な段階に進み、この協議会が解散するときに区に要望を出すようにしたい。
- 委員の多くは2校を1校にするという基本的意見は同じ。皆さんそれぞれ学校に思い入れがある。それは仕方ない。これからの子どもたちのためにという認識できていることと思う。1つの学校にしよう、とこれは間違いない。

- ここでどちらかと出せないならば、現地を見て決めるしかない。
- 1校になるということは了解されている。理想像は検討した。後は場所となると何が引っかかるのか、何で検討できないのか、それを出してもらいたい。スカートを踏まれて前へ行けないという話もあるが、地域の何かか、先輩か、お互いに前へ出られない。
- 広い狭いは数字だけ、実際に見てみてはどうか。
- 周りの環境や、校地の広さ、校舎の建て方を見て。
- そうすればイメージがわくだろう。
- 王子第五小の問題も、言われればそのとおりだ。大局的に見えてきた。
- このままでは、中学校は活力がなくなり、10年もたないだろう。早ければ早いほど良いとは思う。
- (事務局発言) 学校見学会ということか。学校を会場にするか。
- 富士見中・十条中と順番に開催しては。
- 周りの環境を見るのだから、夜でも可能なのではないか。
- 見るだけならば、個人的にもできるのではないか。
- (事務局発言) 樹木は残して欲しいとか、そういう話は良く出る。
- 校舎やグラウンドの配置は大幅には変わらないもの。今あるところに建つと考えて良いだろう。
- (事務局発言) それぞれの学校の図面を用意する。やはり位置について考えていかなければならないので、理念については一定の括りとしてほしい。事務局でシートを送るので、記入頂いて、事務局でまとめて示したい。次回は座長と相談して決めたい。
- 会場は学校を借りてはどうか。
- どうせやるのならば、結論を出してやる方がいい。
- 耐震補強工事とは、どの程度のことをするのか。
- (事務局発言) 阪神・淡路大震災レベルの地震が来ても倒壊しないというレベルにする。昭和56年建築基準法改正のレベルが、阪神・淡路大震災で大きなダメージを受けていない。その強度に合わせるという考え方でやっている。
- 王子第五小の狭さは異常だ。
- 自分が子どもの頃には、今の倍以上の子どもがいた。良くいたなと思う。
- 風評に流されない広報、理解して賛成してもらおう作業をしていかないといけない。どちらの学校でという段階で風評・誤解が出る。説明会や広報を通して説得する作業が必要だ。これから地域あげての活発な時期になるのではないか。
- そのためにも、実地を見て、全体会に諮って、発表すればいい。
- 地域の大勢がどう考えているか。知らせても、目通ししない人は聞いていないというものだ。
- 説明会はやらないといけない。この会として最善の考えだと。そのとききちんとしたデータを示せるか。今、中十条2丁目でやはり富士見中がなくなると広まっているらしい。前回の説明会で、そういうことはないと分かってもらった筈だったが。
- 富士見中の区域の保護者から言われたが、吸収合併という意識がある。理由は十条中の方が広いからというただそれだけ。

- 富士見中に十条中の子が3年来て過ごすことになれば、対等の意識が育つ。分かってもらえると思う。
- 子どもは大丈夫だと思う。
- (事務局発言) どちらが良いかはもちろんのこと、その理由が重要かと思う。地域の反論に耐えうる理由を、納得してもらえるものを示したい。何となく感じていることをきちんと文章にする作業が必要。
- 交通量とか、周囲の環境とか。
- (事務局発言) 富士見中の場所、十条中の場所のメリット・デメリットを書いて頂ければ。一人2つ書けば、10～20にはなると考える。何らかのものがあれば、視点が違ってくる。
- これから挙げる我々の意見をまとめたものを、単Pに示していくのか。
- 一回全員に公平にできるものがあると良いなと思う。
- ある程度の考えの提示をして、気づかなかったことを挙げてもらうという形でないと、賛成反対の投票のようになるだろう。
- 以前にも小学校PTAの意見を聞いてもらいたいというのがあったが、幹事会としてまとめて示した方が、各中学校のPTAにも示せるのではないか。
- 書く内容については、メリット・デメリットでは難しい。総合的に判断して自由に書いてもらってはどうか。自由発想というか、その中で整理してはどうか。
- (事務局発言) かえって何もしづらい方がいいか。事務局から送るのでご記入願いたい。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第8回)

■平成16年12月9日

■富士見中学校

■次第■

1. あいさつ
2. 第7回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- 実地に見て、答えを出していかなければならないので、今日は富士見中を、次回は十条中を実地に見ていきたい。前回までの意見をまとめてあるが、これ以外にあれば出していきたい。

- 富士見中の敷地が北区と板橋区にまたがっているが、たとえば富士見中の位置に王子第五小を移転するとして、障害にならないか。
- (事務局発言) 区がまたがっていて、国有地であるのは課題になるだろう。小学校であればこれだけの敷地は必要ないなどの議論もあるかと思う。
- 国有地であることの財政的な負担はどうか。
- (事務局発言) 国有地は借地料がかかるが、これは都区財政調整の枠組みである程度手当てされる。建て替えには承諾料がかかる。
- 国有地では手がつけにくいと聞いたことがあるが。
- (事務局発言) かつては難しいところがあったが、かなり見直しが進んでいる。規制緩和の流れの中で、承諾料についても将来的に存在するかは不透明なところがある。
- 国有地ということは、国に地代を払っているのか。
- (事務局発言) 借地料は国に払っている。国有地のハードルとしては、建て替えのときの負担である。なお、2区にまたがっているため、板橋区側に校門を作ることは難しい。

#### (学校敷地内の見学)

- 校庭がやや狭いのは確かだが、環境的にはすばらしい。
- あらためて見ると、静かな環境で甲乙つけがたい。
- 十条中では、電車の音はうるさくないか。
- 気になったことはない。
- 実際見てみて、子どもたちも通っているし、十分な状況である。近隣から何か影響はあるか。
- 東京朝鮮高、帝京は、現在はしっかりしていると感じる。どうこうということはない。
- 20~30年前は荒れているイメージがあったが、今は一切ない。
- 加賀中とは何か問題はないか。
- これだけ近いと問題は起こらない。
- 区有地・国有地ということをおいても、校庭については、十条中並みの面積に拡張するのは難しい。十条中の北区一広い校庭は大きな財産か。
- 校門の前を車がスピードを出しているのが気になるが。
- 抜け道になっていて、交通量が多い。朝は交通安全のため当番の教師が旗を持って立っている。
- 保護者の立場としては、加賀中でテニスの音がすると、富士見中のテニス部が、昔はあったが、だんだんと生徒・教師が少なくなり、なくなったのがさびしい思いはする。
- その話は富士見中だからではなく、教師の入れ替えによってどの中学校でも起こりうる。
- 小学校の保護者会に行った際、小学校としての不安感の話を聞いた。学校を比較しているのは確かなこと、保護者としては、いい話を聞くほうに行かせたいのが本心。原則は地域の学校へ通うのだが、部活などの理由があれば行くことが出来る。短絡的かもしれないが、早く統合した方がいいのではないか。
- 小学校の保護者としては、いつ統合するのかをはっきりして欲しい、そうすれば方向性を決められる、ということだろう。

- 基本的に統合に反対している人はいない。長年学校に尽くしてきた人々の思いを伝承するものがあればいいだろう。位置を決めるにあたっては、客観的に長い目で見て決めていきたい。
- 不安な面があれば、事務局から現状を説明してもらったほうがいいだろう。
- これから先、先が見えてきて、どちらにしようかという段階でだが、小学校の代表が必ず出るようにしていただきたい。
- (事務局発言) 統合することが決まれば、両校関係者や地域の小学校関係者も含めた統合推進委員会などを組織し、協議していくことになるだろう。
- 次回は十条中で開催する。

## 王子西地区教育環境整備協議会・幹事会(第9回)

■平成16年1月24日

■十条中学校

■次第■

1. あいさつ
2. 第8回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校配置について
4. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) 前回の補足として、国有地での建て替えの際の承諾料についてだが、現在は借地料の約3年分の支払いが慣例となっている。これについては特別区長会等で廃止の申し入れを行っている。地区教育環境整備協議会については、16年度をもって一応のくくりとするので、幹事会としてはおそらく今回が最後になるだろう。今回、統合校をどの位置にという方向づけがなされれば、全体会を開催したい。出来れば統合の実施時期についても方向性が見出せることが望ましいが、時間的に難しいかと考えている。
- それなりに順調に審議が進んだ印象。雰囲気としては、統合はする、位置を富士見中と十条中のどちらの位置にするかという段階だ。被害者意識を持っては前に進まない、良いものにするために前に進むほかないだろう。
- (学校敷地内の見学)
- 校庭が広く、十条中の位置がよいかと思うが。
- 同じく、校地の広さや環境から、埼京線の音も気にならないようなので、場所的にはふさわしいと思う。建て方の方法を考えれば、校庭もより広くとれる。学校生活の環境としてふさわしい。

- 敷地としてはどちらかといえば十条中。環境としてはどちらも変わらない。十条駅立体交差化の問題、高架化か地下化かが動き出したときにどうなるかを気にしていかなければならないか。
- その点は連合町会としては動こうとしている。駅からある程度離れているので、鉄道敷地が学校まで大きく広がるということはない。
- 理想像として、いかようにも対応出来る柔軟性のある敷地と感じる。周りの環境も含めて良い意味で余裕がある。
- 一点気になるのは、自衛隊駐屯地だが、補給部隊のみなのか。ヘリの音などするのか。
- 自衛隊駐屯地は補給基地のみ、事務関係なので、心配ないと思う。
- 十条中の体育館はまだ新しいようだが、残すのか、建て替えるのか。
- 建物は建て替える前提で話をしているが。
- 体育館などを地区開放しているので、その辺の懸念がある。
- 学校の位置はどちらになるとしても、建て替えの期間は4年間必要になるのか。
- 統合の具体的な部分はこれからだが、当事者間で話し合っ進めていくしかない。
- 実際に校地を回ってみて広いと感じる。建て方次第でいろいろ出来る。いつかはやるのだから、その時期でやるしかない。建て替えの数年間には富士見中の校舎を使うのなら、十条中も富士見中も同じだという環境でやるほかない。
- 校舎、体育館については、ある一部を残してギクシャクしても困る。更地にして理想とするものを作って欲しい。
- 両校とも、大きな道路から少し入るということで、周囲の道路など心配なところがある。自転車通学などの考えも出てくるのではないか。現在でもPTAの集まりなどで保護者が自転車で来ても置き場がない。
- 十条中の位置とすると、王子第三小からやや遠いか。自転車置き場については、建築上の問題となるだろう。
- 長所、課題に挙がっている点について、あらためて実感した。富士見中の位置も良いが、十条中の位置はそのスケールが大きくなった印象がある。課題としては、北側が民地と接しているが、どのように発展的に話を進めていけるか気をつければ、良いものが出てくると思う。
- 後から見た方を良いという感じがするだろうが、客観的に十条中の位置の方が良いと感じる方が多いだろう。
- 子どもたちのことを考えて、より広く、使いやすい方が良い、どうせ作るのならば、ゆったりとしたものを。
- 幹事会としては、「十条中の位置に新しい校舎を作る。統合するということで一致した」ということで良いか。
- (異論なし)
- 全面的に更地にして、新しい理想的な校舎を建てるということは一致しておきたい。その間は富士見中の校舎を利用して、そこから新校舎へみんな一緒に入ると、学校名などは新しい学校を作るのであって、双方のPTA役員・歴代校長など、ここまで育てくれた方々が一堂に会して話し合うなどして決めていく環境を作っていきたい。今までの会合を

無駄にすることなく、区の計画9校の建て替えの中に持っていくように働きかけをしていきたい。

- (事務局発言) 幹事会としては、統合校の位置は十条中の位置が望ましいという意見であると、次回全体会でご了解を得たい。配布した資料は、前回までの協議会の経過である。ご意見があれば、事務局へお願いしたい。最終的なまとめとしては、「十条中と富士見中を統合して1校にする。どのような学校にするかについては、第7回幹事会の内容のとおり。十条中の位置に望ましい学校を全面的な改築で建築する。富士見中校地に王子第五小の移転を視野に入れる。統合の実施時期については、方向付けには至らなかったが、なるべく早く実施することが望ましい。」ということか。
- ここまでまとまって、全体会に臨むが、経過を説明して幹事会ではこうだったが、全体会の知識だけで振り出し的な発言もあるかも知れない。ひっくり返ってしまうことはないか。
- それはないようにしなければならない。新校舎を作るという強い意志を教育委員会や区にも伝えたいし、そのためには町会・自治会挙げて活動していきたい。
- 全体会において幹事会のメンバーが座長の応援団になって意思表示を。
- 我々が盾になっていきたいし、事務局にもお願いしたい。
- 全面的な建て替えの時期について、見通しというか、答えられるものがあつたほうが良いのではないか。
- (事務局発言) 基本計画において10年間で9校を改築する。3年間の中期計画では、王子小、王子中、西浮間小を新しくする計画である。今すぐ必ず改築するののかという件では、事務局で約束できるものではない。9校中3校は校名が明らかだが、残り6校について、早いもの順ではないが決まらないものを待つわけにもいかないのも事実である。地域挙げての応援があれば、事務局にとっても追い風になる。他地区の進行状況は、王子地区、浮間地区は決まり、赤羽西地区において赤羽台中と北中の統合を平成18年4月に実施すると確定した。
- 実施時期まで出したほうが良いのか。
- (事務局発言) 両校のPTA総会などを考えると、3月までにまとめるのは難しいのではないか。1年間は両校の教員、PTAの話し合いが必要になるだろう。平成17年4月統合は無理、平成18年4月統合は果たして出来るかどうか、今の時点では平成19年4月統合が最速なのではないか。どの学校でも、2・3年生の保護者は急いだほうが良いという意向、1年生の保護者はこの学校で卒業させたいという意向になる。活力ある学校を目指しているのに、活力がない学校になるのではということで、統合を急いだところもある。なるべく早い方が望ましい、という話ではないか。
- どうせやるならば早くやったほうが良いということで進めるほかない。
- いつ統合するか示せば良いのではないか。
- それをそうしたいのはやまやまだが…。
- 区や議会にいつ統合したいと決まりましたと、それに見合う形で進めてもらいたいと決めたほうがよいか。
- 出来るだけ早くというのがいつなのかを言ってもらったほうが良いのではないか。例えば平成19年4月などという感じで進めたほうが良いのでは。
- 時期を明示しないと子どもたちにわからなくて思わしくない。

- 目標を決めないことには先に進まない。とにかく進まない、という応援が必要。
- 出来るだけ早く、それは最速で平成19年4月である、として、どう表現するか。
- こういう会議があっただけで説明会を、という話になるのだから、出さないほうが良いのではないか。
- 出来るだけ早くということで、実際に統合するときその内容を考えてもらってはどうか。
- 平成17・18年度は準備期間であるということか。
- 統合の時期については平成17年4月、平成18年4月は事実上無理であるので、それ以降とするということかどうか。
- (事務局発言) 統合校の配置は現在の十条中の位置とする。統合実施時期はなるべく早くすることが望ましい。実施時期についての意見として、平成17年4月・平成18年4月の統合は困難ではないか、平成19年4月が目標ではないかという声があった、とのまとめでよいか。
- それで良い。

### 王子西地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成16年2月18日

■十条台ふれあい館

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. 協議会検討報告
4. その他

■発言要旨■

- これまでの経過を踏まえて一定のまとめとなった。協議会として最後の集まりとなるが、我々幹事の方でよいのか、皆さんの意見を頂いていきたい。
- (事務局発言) (経過説明)
- 今までこの回数をやってお分かりかと思うが、幹事としてはこの方向で納得している。十条中での会議の際にほとんどがこの方向ではないかとまとまった。全体会で決定して次の段階へ進める。納得していただいて、この方向でいければと思っている。
- 中学校の統合は前にも賛成と言ってある。収入の関係もある。新校舎は財源があれば出来るが、余り先伸ばしは出来ないのではないか。
- 決められるものならば決めて議会にも報告し、先に進みたい。
- 平成17年度予算では何か予算はとってあるのか。

- (事務局発言) 統合が決まらないうちに予算だけを計上することはない。地域の意向がはっきりと決まってから必要ならば補正予算をとる。
- 一斉に出来るわけではない。どうしても順番をつけていかなければならない。地域の理解を得られたうえで進んでいくものである。
- 統合については前回の全体会で了承しているのではないか。
- (事務局発言) 前回の全体会で、中学校は1校が望ましいということをご了承いただいた。今回はその位置について、十条中の位置が望ましいということをご了承いただき、最終的なとりまとめとしたい。統合の実施時期については議論に至らず、ただ、なるべく早く、平成17年度・18年度は協議が難しい、平成19年度が目標ではないかというところに留まっている。
- 位置についてはまとまったが、時期については平成19年4月ではどうかという意見も出たが、まとまってはいない。
- 幹事会でまとまっていないということか。そういうことではなく、お互いの理解のためにはそれくらいの期間が必要なのではないかということ。
- この会議では場所を決めるということが主旨か。
- まず、統合校の位置についてご承知いただきたい。
- 実施時期を平成19年度・20年度にするのかは別の問題としてとらえるということか。
- 幹事会の意見だけではなく、全体会に了承を得ないと前に進まない。統合の実施時期については物理的な問題もある。
- もう少し委員には出席して欲しいところだが。
- 納得しているから出てこないということもある。
- 町会・自治会長会議で話題にしている。
- 場所を早く決めて、統合の実施時期は早ければ良いのか、どうなのか。
- ここで決まったからといって早くなるということではない。ただ、決まっていなければ後になる。
- 時期を早く決めたほうがいい。
- なぜその時期になるのかについて、事務局から説明を。
- (事務局発言) 平成17年度・18年度が事実上困難というのは、事務局からも申しあげたが、子どもたちに関わることであり、両校の教育課程や、PTA同士の交流、お互い分かり合い、理解しあった後でないとスムーズにいかないということ。一緒になってのスタートであるので、校則をはじめ標準服など新たなものを考えると、1年かけて平成19年度が最速ではないかという考えである。予算がついた、つかないではなく、必要になれば補正予算を組むことを考える。
- 準備の期間はキチンととって欲しい。例えば平成19年度となれば、この4月に入ってくる子の保護者は統合ということは頭に入っていない。平成20年度からならば、平成18年度入学の保護者は分かっている。入ってくる子どもたちに周知してやるべきだと思う。そうしないと混乱しかねない。子どもたちのためには早いほうが良いが。
- 平成19年度統合だと決めて発表して、どちらかの学校は入学停止として、2・3年生が卒業すれば良いのではないか。そういうやり方も方策としてあるだろう。早めに打ち上げれば考えるのではないか。

- 保護者に選択肢を与えていただきたい。平成20年度として、現在小学5年生の保護者にとっては、私立にという考えも出来るし、保護者が受け止められるようにしていただきたい。
- まず位置について決めるべき。そして次の話を。
- 統合校の位置については十条中の位置でよいか。
- (異議なし)
- 建てるほうの立場として、新築のためには、設計や取り壊しのために時間が必要なのか。
- やるならば進めたほうがいい。
- (事務局発言) 基本計画において、10年間で9校の改築を示している。そのうち3校は決定している。ただし、残りの7校は早いもの勝ちではないということをご理解いただきたい。決まっていなければ動けないが、決まったからといって早い訳ではない。予算の状況は確かに北区は厳しいが、だからこそ長期計画に組み込んでいる、何とか10年間で9校の改築を見込んでいるとご理解いただきたい。
- ここで決まったら4校目となるのか。
- (事務局発言) 協議会の段階で統合を決めた地区はもう一つある。だからといって5番目の改築を約束したものではない。しかし、統合校を優先して改築するという基本的な考えはある。
- 平成20年度としても、例えば平成25年になるかもしれないということか。
- (事務局発言) 統合の実施時期と改築の時期は必ずしも一致しない。王子は17年4月統合だが、新校舎竣工予定は21年という状況。学校規模の確保が子どもたちにとって大事ということでこの会議を開催している。
- 統合校については、例えば4~5年後に新築されるということか。すると、全体会で平成17年4月に統合するとしたらどうなるのか。
- (事務局発言) 全体会でご了承いただいたとして、すぐに実施できるわけではない。関係校の保護者に説明し、ご了解いただければその方向で進むが、それが問題になろう。
- それは問題だ。巷では明日にも統合するといわれている。
- (事務局発言) 委員の皆さんの意見としては、統合は急ぐべきという意見と受け止める。
- 中学校の現場では、平成19年4月の統合というのは生徒やPTAに説明するのに無理があるのでは、平成20年4月ならば出来るのではないかという話もあった。
- キチンと説明して入学してもらおうほうがいい。
- 平成20年4月として統合前に設計等を進めることは出来る。
- 小学校に説明するには何年必要になるのか。
- 他の地区の話だが、聞いた範囲では、統合となると、保護者の選択が変わる傾向がある。この年度から一緒に校舎に入るということキチンと説明するのが親切であろう。
- 説得するには1年はかからないが、ただ、この学校で卒業できるとして入学してくる。そこをキチンとしていくのが筋ではないか。
- 統合とは、人間同士の問題であって、それらをクリアするのにどれくらいかかるのかを考えないといけないのではないか。
- そのためには平成19年4月は早いのではないかと。

- (事務局発言) 統合校の場所が十条中の位置に配置するという事はご了承いただいた。統合の実施時期については年度を入れずに、なるべく早く実施することが望ましいとしてはいかがか。
- なるべく早くということに賛成する。校舎のことよりも、生徒の精神をキチンと育成する学校にして欲しい。
- なるべく早くというのはどちらにも取れる。目標を入れたほうが良い。そしてなるべく早くとしたほうがいい。
- 違う学校が一つになるのは、考える程簡単ではない。
- しかしどんどん進めていったほうが良い。そのときになって3年後、5年後となりかねない。
- そのためにも目標はあったほうがいい。しかしなるべく早くと。
- では、平成20年4月を目標として、でどうか。
- 現場の話も聞きながら進めたいということか。
- 地域から子どもを送るのであり、地域としては早くしたほうが良いと考える。
- 平成20年4月を目標として、なるべく早く進めたほうが良いということではどうか。
- 平成19年度では、平成17年度入学の子は、平成19年度が3年生であり。保護者のとらえ方として無理ではないか。
- 平成20年度ならば、今度の小学校6年生・5年生に説明ができ、保護者として選択の幅が得られる。
- 100人いれば意見は皆違う。進めていったほうがいい。
- この方向ならば納得得られるだろうと。平成20年4月と入れてはどうか。
- どこかの時点で協力し合わなければいけない。平成19年4月という希望はあったが、納得して進めるため、子どもたちの選択肢を確保したほうがいい。
- (事務局発言) 整理すると、協議会方針1 富士見中と十条中は統合し、新たな1校となる。 2 その位置としては、現十条中の位置とする。 その3 学校統合は、平成20年4月に実施することを目標とする。 という3点で良いか。
- 今のまとめでよいか。
- (異議なし)
- なるべく早くという文言も入れると良い。
- 平成20年4月を目標とするならば、小学校のPTAへ話を進めていただきたい。
- 皆様のご意見をいただき、全員一致でまとめることができ、ありがたい。各町会・自治会長の皆さんからもスムーズに進むように働きかけていただきたい。